学校番号	３０３７

令和５年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	世界史Ｂ	単位数	４単位	年次	３年次
使用教科書	詳説世界史　改訂版（山川出版社）						
副教材等	グローバルワイド　最新世界史図表　四訂版（第一学習社）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

歴史は繰り返す　繰り返すからこそ歴史である。
歴史に学び、現代の世界を読みとく。

２　学習の到達目標

歴史的思考力を高め、その法則性を感じ取る。
人類の営みを古代から学習し、繰り返されてきたグローバル化の特徴を理解し世界を読み取る。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	近現代史を中心とする世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、国際関係の発展と現代世界に積極的に関与する姿勢。	世界が抱えてきた諸問題を理解し歴史的にどのような方法で乗り越えてきたを考え、現代世界に対応する思考。	諸資料や年表、国際関係の構図を理解しまとめる。また発表等によって自己の考えをまとめていく。	歴史的事象とその関連性を把握し、現代世界が抱える諸問題にアプローチする。
評価方法	定期考査 ワークシート 〔主題学習〕 振り返りシート	定期考査 ワークシート 〔主題学習〕 グループ発表	定期考査 ワークシート 〔主題学習〕 グループ発表	定期考査 ワークシート 〔主題学習〕 レポート

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
一学期	さまざまな地域世界	・文明以前の人類 ・オリエント世界と東地中海世界 ・地中海世界と西アジア ・東アジア世界 ・中央ユーラシア世界 ・東南アジア世界 ・アフリカ・オセアニア・古アメリカの地域世界	 ○ ○ ○	 ○ ○ ○ 	○ ○	○ ○ 	a:各地の気候風土を理解し各地の文明について関心を高めている。 b: 諸文明の交流をグローバルな視点で考察している。 c: 資料、芸術品等から諸文明の特質をまとめている。 d: 古代文明と今につながるものを把握している。	ワークシート 定期考査
	広域世界の形成と交流	・イスラーム世界の形成 ・ヨーロッパ世界の形成 ・東アジア世界の変容とモンゴル帝国 ・海域世界の発展と東南アジア	○ ○ 	○ ○ ○	○ ○	○ ○ 	a：宗教と政治、国家との関係について関心を高めている b：諸地域の国家と経済活動の関連性について思考を深めている。 c：世界的な人、物の動きを地図にまとめるなど整理している。 d： 文明、文化についての知識が身についており、その交流、移動について理解を深めている。	ワークシート 定期考査
二学期	一体化する世界	・大交易時代 ・ユーラシア諸帝国の繁栄 ・近代のヨーロッパ ・欧米における工業化と国民国家の形成 〔主題学習〕 ・日本と世界の動きについてグループごとにテーマを設定しまとめていく	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	a：ヨーロッパ世界の世界進出により諸地域に及ぼした影響を考え関心を高めている。 b：世界のつながりによる経済活動と各国の政治活動について特徴を捉えている。 c：地域別の活動を理解し、どういう経緯で融合していくかをまとめている。 d：主権国家の概念と現在の国家との比較をおこない、その違いについて理解を深めている。	定期考査 グループ作業 ワークシート

二学期	地球世界の形成と課題	・産業資本主義の発展と帝国主義 ・アジア諸地域の変革運動 ・世界戦争の時代 ・戦後世界秩序の形成	○ ○	 ○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	a:産業革命による工業化がもたらす新たな世界秩序について理解を深め、現代世界との関連性に関心を高めている。 b:植民地の意味とその構造を政治面と絡めて考察している。 c:ヨーロッパ列強の進出による諸地域での変化、もたらしたものと失ったものを整理している。 d:世界の潮流と日本の変化の関係について、政治、経済、文化面から確認している。	定期考査 実力考査 グループ作業
三学期	地球世界の形成と課題	・情報革命と世界経済の一体化	○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	a:現代の世界の動きを新聞・ニュース等で積極的に集め追求している。 b:現代世界の動きと日本の対応について考察を深めている。 c:具体的な課題について世界の情勢を分析しまとめている。 d:現代世界の大きな変化を把握し、それが及ぼす影響について理解している。	

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　b:思考・判断・表現
c:資料活用の技能　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について〇を付けている。